
Love and a PIECE .

kou

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Love and a PIECE .

【Nコード】

N4196R

【作者名】

kou

【あらすじ】

パズルのピースが私の前で舞う。

このパズルを完成させなければ私の彼は死んでしまう。

そんな「ルール」の中、私は奮闘するが…

残りの1ピースが見つからない…

なぜ、私達はこうなってしまったのか？

サスペンスミステリーです

サクッと読めます

紙が私の目の前で舞った。

それがパズルのピースだと気付くには時間がいらなかった。

私は必死になって、その散らばったパズルを広い集めた。

このパズルを完成させないと私の彼は死んでしまう。

そういう「ルール」なのだ。

見慣れた私たちの部屋

ひとまず、広い上げたパズルのピースを机の置き、並べていく当たっているかわからないけれど、、、

手が震えている、、、急がなきゃ、、、

だんだんと形に成っていく。

その変わりに焦燥感が増す。

どうしようもない事態に私は気を失いそうだ。

「ぎゅっしてっ？」

思わず口に出してしまっ。

口に出したところでどうなるわけでもないのに、、

このパズルは昔、2人で外国へ旅行をした際に撮った写真で作ったモノだった。

取り敢えず、集めたパズルが並べ終わった。

また集めないと、、

時間が経つ程に彼の笑顔が薄れていく。

そんな悲しい現実、、受け入れたくない！

私は諦めないようにと、、気合いを入れるため両手で顔を叩く。

「全力を出せば出来ない事は無い。」

それが彼の口癖だった。

なら私も全力を出すべきだ、、
よし、やるぞ。

大量の汗が私の顔から落下する。

気付けば20分近く経っていた。

残りはあと何分だろう？

焦りすぎてもダメだ。

私は落ち着くために深呼吸をする。

冷静な判断ほど大切なモノはない。

そして、残り1ピースまで見つけた。

私の顔のピース、、、

確か、これ以上ない笑顔をしていたはずだ。

彼とは三年前、今現在も勤める会社に大学を卒業して入社した時に出会った。

そして、二年の間、一緒に過ごした。

元々、家族も友達もいなかった孤独な私は、彼に救われた。

家族、、、愛から私は捨てられたのだ。

だから、彼の事が大事で愛している私には彼の代替などいない。

顔のピースを探すのに、10分も使ってしまった。

リビングには無い、、、

もうほとんど全てを探した。

無い。

無い。

無いのよ。

彼の笑顔が、、、薄れていく。

優しい笑顔。

いつも、私を励ましてくれるあの笑顔。

涙が、、溢れ出してきた。

前が見えない。

なんでよ、、

時間がきた。45分経った。

45分経った。時間がきた。

時間がきてしまった。45分が経ってしまった。

45分が経ってしまった。時間がきてしまった。

彼は生きているだろうか？

私は無力を恨むように。

悲劇のヒロインのようにその場に倒れこむ、、

はあ、、、

すくつと立ち上がりパズルを持ち、お風呂場へ向かった。

扉を開くと、浴槽に水が溜まる音と薄暗い中にモニターの青白い光が見えた。

モニターに映っているのはリビング

そう私達のリビング。

彼は生きていた。モニターを眺めて。体を縛られて。

そして私を見て安堵の表情を見せた。

ゆっくりと近づき水を止める。

彼の首あたりまで溜まっている。

もう少しで彼は死んでいただろう。

私は電気を付け、彼にパズルを見せた。

私の顔だけないパズルを、、

彼は首を横に振る。

全てに気付いたようだ。

昨日、、

二人で外食をした。

その帰り道、些細なことで喧嘩した。

それは本当に些細なこと。

しかし、私達は大喧嘩をした。

「お前との日々を忘れられるなら死んでもいい。」

そう言っつて、私の顔のパズルのピースをゴミ箱に投げた。

だから私は彼を懲らしめるために、この計画を立てた、実行した。

「私はあなたを心の底から愛しているわ」

彼は困った顔になった。

可愛らしい表情だ。

私はまた水を流す。

風呂場を出て、急いでゴミ箱へ向かう。

私は彼を助けない。

パズルを見付けられなければ、彼を助けられない。

それが「ルール」だ。

そして、パズルのピースを見つけ、彼を救った時、

私達の愛は完全になる。

私達の愛は永遠になる。

異臭を放つゴミ箱をひっくり返す。

手で無我夢中になりあさる。

あさる

あさる

あさる

あさる

あせる

あさる

あせる

あせる

無い！無い！どうして？

ゴミ箱に私の顔のピースは無かった。

次にゴミ袋をあさった。

けどやっぱり無かった。

「どうして？」

怒りが込み上げてくる。

私は「ルール」を守る。

そつでない愛は永遠ではなくなるから。

リビングはもうない、、、

私の部屋にもあるわけない。

なら、、、

彼の部屋、、、

でも、今まで入るなって言われたし、、、

鍵もかかっているし、、、

いや、いいわ。

トンカチ、、、

扉を押し開けるのは女性じゃ無理かもしれないけど鍵を壊すくらいなら私にも出来る。

2分程掛かったけれどガシヤンと壊れた。

ギギツと扉が開く。

彼は有名大学を卒業している。

私は二流どころか三流大学の卒業。

それなのに同じ小企業に勤めた。

彼曰く

「不景気というアブノーマルがノーマルになっている時代だからね。」

それを私は信じた。

きつと嘘だったのだろう。

きつとという表現は間違いだ。

絶対に。

部屋に入りそんなことを思った。

戸惑いと迷い。

「私だらけ、、、」

壁一面が私だらけ

正確には私の写真だらけ。

中には高校時代の写真まで、、、

なぜ？

理由がわからない。

いや、単純に考えれば簡単だ。

「ストーカー、、、」

彼はずっと私を見ていた。

複雑な気持ちだ。

怖い、、、

他の人なら

彼なら嬉しい。

私を真に愛してくれているのだもの。

小さなテーブルには小さな箱と手紙が置いてあった。

その中には、2人の名前が刻まれた指輪と私へのメッセージ。

指輪には forever LOVEと書かれていた

永遠の愛はもうあったんだ、、、

完全な愛はもうあったんだ、、、

ふと壁を見ると大事そうに私の顔のピースが飾られていた。

今、思えば彼は欲しいものはどうやってでも手に入れる人だった。

手紙には、昨日のケンカの贖罪と愛してるの一言。

そのピースをとり私は足取り軽く、お風呂場へ向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4196r/>

Love and a PIECE .

2011年10月8日20時30分発行